

グループ形態による国語の授業の実践 －漢文において他者と意見交流して読みを深める－

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 史伝
- 3 教材名 司馬遷「史記 鴻門之会（剣舞）」（「鴻門之会 学習プリント1」を使用）
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	<p>①単元の目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察しようとする。（関心・意欲・態度）</p> <p>イ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。（読む能力）</p> <p>ウ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。（知識・理解）</p> </div> <p>②単元の目標設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢文に苦手意識をもっている生徒が多く、「難しいからつまらない」という声が聞こえてくることもある。そのような生徒に、本教材の劇的な展開や多彩な登場人物の魅力を味わわせて、本来漢文がもっている面白さに気付かせたいと考えた。 ・面白さを味わうためには、まずは正確な現代語訳ができなければならない。そのために句法や漢字の意味を理解する必要があると考えた。 ・現在、様々な作品によって項王と沛公の人物像が描かれているが、それらの大本になっている本文から自分で人物像を読み取り、他者と意見交流することで、自分の読みがより深まっていくようにしたいと考えた。 <p>③中心となる学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段、国語総合・現代文B・古典Bの授業は全て、授業の最初から最後まで3～4人のグループの形態で行っており、今回もグループの形態で行う。 ・本文の表現を根拠にして読み取れる項王と沛公の人物像を、個人で考えた後にグループで交流して考え方を広げていく。答えが1つと決まっている問いに関しては、個人指名でテンポよく進めていけばよいが、複数の解釈が成り立ち得る問いに関しては、他者の考えに耳を傾け、自身の物事のとらえ方、考え方を広げていくことにつなげたいと考えた。 <p>④言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループ形態で授業を進めていき、個人指名・ペアワーク・グループワークをメリハリを付けて行った。 ・答えが1つの問いについては個人指名で答えさせるが、詰まってしまうような場合にはすぐにグループのメンバーにアドバイスを求めるように助言した。 ・複数の解釈が成り立ち得る問いに関しては、内容の深さによってペアワークとグループワークを使い分けて行った。 <p>⑤評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 35%;">評価規準</th> <th style="width: 25%;">評価方法</th> <th style="width: 30%;">状況Cの生徒への対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 関心 ・ 意欲 ・ 態度 </td> <td style="vertical-align: top;"> ①本文の表現から想像力を働かせて、登場人物の性格や個性を読み取ろうとしている。 ②読み取った内容を他者と伝え合うことで、自分の考え方を広げようとしている。 </td> <td style="vertical-align: top;"> 観察（机間指導） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・漠然とどのような人物だと感じているかを答えさせ、足掛かりにする。 ・他のメンバーの意見に対して自分がどう感じたかを考えるよう助言する。 </td> </tr> </tbody> </table>				評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応	関心 ・ 意欲 ・ 態度	①本文の表現から想像力を働かせて、登場人物の性格や個性を読み取ろうとしている。 ②読み取った内容を他者と伝え合うことで、自分の考え方を広げようとしている。	観察（机間指導）	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とどのような人物だと感じているかを答えさせ、足掛かりにする。 ・他のメンバーの意見に対して自分がどう感じたかを考えるよう助言する。
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応								
関心 ・ 意欲 ・ 態度	①本文の表現から想像力を働かせて、登場人物の性格や個性を読み取ろうとしている。 ②読み取った内容を他者と伝え合うことで、自分の考え方を広げようとしている。	観察（机間指導）	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とどのような人物だと感じているかを答えさせ、足掛かりにする。 ・他のメンバーの意見に対して自分がどう感じたかを考えるよう助言する。 								

	読む能力	①文章の内容を本文の表現に即して的確に読み取っている。 ②文章に描かれた登場人物の性格や考え方、人物同士の関係を的確に読み取っている。	観察（机間指導・発表） 点検（単元の終わりに学習プリントを提出）	・部分的な現代語訳を再確認するよう助言する。 ・学習プリントの「座席表」を再確認するよう助言する。
	知識・理解	①句法や重要語について理解し、その知識を用いて文章の内容を読み取っている。	観察（机間指導・発表）	・句法や漢字の意味を再確認するよう助言する。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの形態で授業を行うことで、お互いに話しやすい環境になり、以前まで個人指名で詰まってしまう「わかりません」と答えていた生徒が、グループのメンバーにアドバイスを求めてなんとか答えようという姿勢を見せた。 ・ペアワークやグループワークを移動の手間なく即座に行うことができた。 ・意欲を失いがちな生徒を引っ張り上げることについては効果的であったと言えるので、意欲や理解度が高い生徒をも刺激し、更に力を伸ばす発問の工夫が必要である。 			
アドバイス及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ① グループの形態で授業を行うものの、全てをグループで話させるのではなく、個人指名・ペアワーク・グループワークのメリハリを付けて間延びしない授業展開を心掛ける。 ② 全ての科目、教材で行うことができる。 			
小中学校との系統性	中学校・第三学年・C読むこと 「ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。」 「イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。」			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力的な人物像を知り、今後の学習に興味・関心をもつ。 ○本文が正確に読めるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項王と沛公という人物について概要を聞く。【エ】 *留意点 ・この後本文を根拠にして人物像を読み取っていくため、深く話し過ぎない。 ・範読、群読で読み方を確認した後、ペアでの音読を行う。【ア】 	積極的な様子で話を聞いている。【関】 ↓ 観察（机間指導） 正しい読み方で音読している。【知】 ↓ 観察（机間指導）	簡単な発問をして興味を引く。 ↓ 予習をしてくれているか確認する。 難解な部分はペアの生徒に尋ねるよう助言する。 ↓ 今回間違えた箇所を正しく読めているか確認する。
2	○句法や漢	・沛公の謝罪から項王が范増の指示を無視	句法や漢字の意味を	板書で確認した句

	<p>字の意味を理解した上で、正確に現代語訳をする。</p> <p>○本文を根拠に項王と沛公の人物像を読み取る。</p>	<p>する場面までの内容を理解する。 【ア、イ】</p> <p>・根拠となる箇所を明確にした上で、そこから読み取れる人物像を考え、グループで意見を交流する。【ウ】【言ウ】</p> <p>*留意点 ・沛公はへりくだりの表現に、項王は曹無傷の名を自ら述べる行動に着目させる。</p>	<p>的確にとらえた現代語訳ができています。 【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（指名発表）</p> <p>根拠を示し、その箇所と整合性がある人物像を挙げられる。 【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導、指名発表）</p>	<p>法や漢字の意味を再確認したり、グループの他の生徒にアドバイスをもらったりするよう助言する。</p> <p>↓</p> <p>正しい現代語訳ができていますか確認する。</p> <p>グループの他の生徒がどのような箇所に着目しているか参考にするよう助言する。</p> <p>↓</p> <p>人物像を述べられるか確認する。</p>
3	<p>○句法や漢字の意味を理解した上で、正確に現代語訳をする。</p>	<p>・項莊が剣舞をする場面までの内容を理解する。【ア、イ】</p> <p>*留意点 ・使役の句法に関して十分に説明し、主語、目的語を補って訳させる。</p>	<p>句法や漢字の意味を的確にとらえた現代語訳ができています。 【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（指名発表）</p>	<p>板書で確認した句法や漢字の意味を再確認したり、グループの他の生徒にアドバイスをもらったりするよう助言する。</p> <p>↓</p> <p>正しい現代語訳ができていますか確認する。</p>
4	<p>○句法や漢字の意味を理解した上で、正確に現代語訳をする。</p> <p>○作家や漫画家のとらえ方を知る。</p>	<p>・項伯も剣舞をした理由を理解する。 【ア、イ】【言ウ】</p> <p>*留意点 ・項伯が項王側の人間でありながら沛公に味方する背景を補足説明する。</p> <p>・司馬遼太郎の小説『項羽と劉邦』と横山光輝の漫画『項羽と劉邦』の、「剣舞」の場面や項王と沛公の描かれ方を確認し、グループ内で感想を述べ合う。 【オ】【言イ】</p>	<p>句法や漢字の意味を的確にとらえた現代語訳ができています。 【読】</p> <p>↓</p> <p>観察（指名発表）</p> <p>積極的に意見交流をしている。 【関】</p> <p>↓</p> <p>観察（机間指導）</p>	<p>板書で確認した句法や漢字の意味を再確認したり、グループの他の生徒にアドバイスをもらったりするよう助言する。</p> <p>描かれた人物をどう思うかを質問する。</p>

6 第2時の学習指導案

本時の位置	2時間目（全4時間）
本時の学習目標	<p>ア 句法や重要語を正しく理解した上で現代語訳をする。（読む能力／知識・理解）</p> <p>イ 本文を根拠に項王と沛公の人物像を読み取り、グループで共有し深める。（読む能力）</p>
事前の準備	<p>①白文、書き下し文、現代語訳、重要事項を書き込める学習プリントを作成する。</p> <p>②登場人物名のマグネットを作成する（敵・味方の区別が付くよう色分け）。</p>

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	<input type="checkbox"/> 前時の振り返り <input type="checkbox"/> 本時の目標の確認	① 3～4人のグループになって本時のリーダーを決定する。 ② 学習プリントを見て前時までの話の内容を確認し、本時の目標を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標と白文を授業開始前に板書しておく。
展開 40分	<input type="checkbox"/> 本文の音読 <input type="checkbox"/> 漢字や句法を確認し、現代語訳をする。 <input type="checkbox"/> 項王が范増の指示に応じなかった理由を考える。 <input type="checkbox"/> 本文から読み取れる項王と沛公の人物像を考える。	③ 起立してペアで本文を音読し、読み終わったペアから着席する。 ④ 重要事項を確認した上で、現代語訳を考える。 ⑤ 個人の指名発表によって確認していく。 ⑥ 各自で考えた後、ペアで交流し確認する。 ⑦ 各自で学習プリントの白文の根拠となる部分に線を引く（項王と沛公で線の種類を分ける）、読み取れる人物像を「個人メモ」欄に記入する。 ⑧ グループ内で交流し、意見をまとめて学習プリントに記入する。 ⑨ 指名された数グループのリーダーが発表し、クラス全体で交流する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>目標 ア に対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 漢字や句法の意味が正しく、文意の通る現代語訳ができています。</p> <p>[方法] 指名発表による確認 [状況Cの生徒への手立て] 漢字や句法の意味をプリントで再確認し、それでもわからない場合は、グループのメンバーと相談してヒントを得るよう助言する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物名のマグネットを黒板に貼り、人物関係を分かりやすくする。 ペア、グループワークの前段階として個人で考える時間を設け、学習プリントの「個人メモ」欄に意見を書くよう指示する。 項王の性格面だけでなく、沛公の態度にも着目させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標 イ に対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 根拠を明確にした上で、自分が読み取った人物像を述べている。</p> <p>[方法] 机間指導、指名発表による確認 [状況Cの生徒への手立て] グループの他の生徒がどのような箇所に着目しているかを参考にしよう助言する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 項王について意見が出づらければ、こちらから「此沛公左司馬曹無傷言之」という発言を示し、「素直」や「単純」という意見を引き出す。 個人の活動・発表とペアやグループでの活動のメリハリを付けて進める。
まとめ 5分	<input type="checkbox"/> 本時のまとめと次時の予告	⑩ 学習プリントを見返し、本時の学習内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 次時の範囲の予習をしてくるよう指示する。